

地域で福祉活動に携わる小地域福祉会や郷づくり推進協議会の関係者、民生委員・児童委員を対象に、令和6年度小地域福祉会研修会「小地域福祉会活動とともに考える座談会」を開催しました。令和6年9月13日（金）に勝浦・津屋崎・宮司郷づくり地域を対象に、令和6年9月20日（金）に福間・福間南・上西郷・神興・神興東郷づくり地域を対象に開催し、合わせて81名が参加しました。今回のふくつのふくしでは、各テーマごとに座談会の内容を紹介します。

【テーマⅠ】 小地域福祉会の担い手づくり ～若い世代の参加を促すために～

「コロナ禍以降、特に若い世代との交流する行事が減っているため、顔を合わせて話す機会がない」「自治会未加入者とは分別収集などの地域行事で話すこともできない」「自治会や福祉会の活動内容を知らない人が多いのでは」などの意見があがりました。



社協からの事例を紹介

社協から若い世代の協力を得ている地域の事例を共有し、これからの取り組みについて意見交換を行いました。

意見交換をとおして、若い世代が地域に参加するきっかけづくりの視点を持つことが重要であること、その上で自治会や福祉会等の地域行事で交流をする場を作ることが必要であることが確認されました。若い世代にチラシを手渡したり、LINEで情報発信ができる体制を整えたりなど具体的な取り組み案も出されました。

「パソコン作業など得意な分野から若い世代に地域で活躍してもらおうかな」と若い世代とつながるヒントを得た参加者もいました。

【テーマⅡ】 みんなで分析 ～伝わるチラシ・広報誌とは～

小地域福祉会等が作成するチラシや広報を事前に集め、展示や冊子にして配布しました。「他地域のものを目にすることがなかったので新鮮でした」と好評でした。



手書きのイラストやカレンダーが好評でした

住民の方の目にとまるようにカラー印刷して回覧板で回したり、見守りも兼ねて戸別配布したりなど各地域で工夫しながら活動を広報していました。

展示では、「カレンダー形式の行事予定が見やすかった」「フォントが大切だと感じた。真似したい」「役員の方のこもったメッセージがある点が良かった」などの意見があがりました。

会長や役員の方がチラシを作成している地域が多いものの、「地域で絵やパソコンが得意な方などを見つけて、広報の担い手として仲間になってもらうのもいいね」という意見もできました。

【テーマⅢ】 地域福祉活動からはじめる 防災・減災の取り組み

「地域で水害が起こりそうな箇所や危険な箇所を把握し、避難場所までの経路を確認するなど意識的に取り組んでいる」「一斉防災訓練時に避難の目印として白いタオルを掛けることは随分と定着してきた」などの意見があがりました。日頃からのつながりを活用して災害時に配慮が必要な方を把握していたり、自主防災組織の取り組みを進めていたり、各地域での防災・減災に関する取り組みを共有しました。



地域防災について熱心に語り合う参加者

自治会加入者の減少が地域の防災力の低下の一因にもなっているため、地域で防災・減災について学ぶ機会をつくること、その上で自治会や地域活動を今後考えていくことが大切であるとの意見が出されました。

訓練は発災時という本番に向けた素振りだと思い、マンネリでも繰り返し訓練することが、もしもの時の適切な行動につながると再認識しました。

【テーマⅣ】 地域に住む障がい者を どのように支えるか

障がい者の地域生活を支える基幹相談支援センターや相談支援事業所の福祉専門職との意見交換を行いました。

参加者から長年に渡って障がい者世帯を支えている実践の報告がある一方で、「障がい者とのつながりが」「どう対応したらよいか分からない」という声もありました。専門職からは「福祉サービスだけでは支えられない地域で孤立している世帯がある」との現状説明があり、災害時に避難が困難な障がい者を支えるための平時からのつながりが不足していることを共有しました。

避難に困難を抱える障がい者の情報を得にくいという課題を解決するためには、障がい者の状況をよく知る福祉専門職が地域に情報を発信していくことが必要で、情報がなくては地域での取り組みの活性化も難しいとの意見も出ました。

福津市は障がいの有無に関わらず住みやすいまちづくりを進めていますが、多くの課題が残されています。地域の方と共に一歩一歩進めていく必要性を感じました。



福祉専門職と話をする参加者